

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「生きる力」を育む教育活動の充実を図るとともに、生徒の個性を伸長させ、社会をリードする人材を育成する学校。
1 学習において、主体的に知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する「確かな学力」を育成する。
2 生命や人権を尊重し、自然や美しいものに感動する「豊かな心」を育むとともに、たくましく生きるための「健康・体力」を保持増進する。

2 中期的目標

1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成 （1）生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進 ア すべての教科において、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、一人ひとりの生徒が能動的に参加できるように授業の工夫を行い、今後必要とされる学力の向上をめざした授業研究・実践に取り組む。 イ 定期的に会議を実施し、個々の生徒の状況を共有し、課題のある生徒に対して組織的に対応する。 （2）自学自習習慣の確立 ア 自学自習習慣の確立のため、自習環境の整備や大学生の学習ボランティアの活用など学習環境の整備に努め、生徒の自ら学ぶ力を育成する。 ※授業アンケート調査における「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定率を令和8年度には85%以上とする。(R3 87.8% R4 82.5% R5 84.3%) ※授業アンケート調査における「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の肯定率を令和8年度には85%以上にする。(R3 88.0% R4 83.9% R5 84.3%)
2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ （1）基本的生活習慣の確立 ア 遅刻指導やマナー指導を通じ、基本的な生活習慣の向上や学校生活における規範意識の醸成を図る。 （2）学校行事の活性化 ア 生徒会や部活動・団活動のリーダーを中心に、生徒一人ひとりが協力し合い、本校の特色を生かした取組みについて、生徒の自主的な活動を促進する。 イ 学校行事や生徒会活動の特別活動を通して、他者を理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。 ウ 姉妹校の訪問と受け入れや訪日団体の受け入れ等、国際理解教育を積極的に推進し、グローバル社会に対応できる力を育成する。 （3）体力・運動能力向上のための取組みの充実 ア 生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるよう事故防止や熱中症予防についてのセミナーを開催し、健康管理や救急救命処置についての生徒の意識を高める。 ※学校教育自己診断における「本校は生徒心得を守るよう適切に指導している」の肯定率を令和8年度には85%以上とする。(R3 76.3% R4 81.4% R5 83.4%) ※学校教育自己診断における「私は服装や頭髮等、生徒心得を守っている」の肯定率を令和8年度には97%以上にする。(R3 92.0% R4 95.4% R5 95.7%)
3 進路保障 （1）キャリア教育の推進 ア 全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成する。効果的な指導を行うためのガイダンスなどを系統的・継続的に行う。また、教科でのキャリア教育を推進し、思考力・判断力・表現力をより重視した教育活動を進める。 （2）進学対策の充実 ア 放課後セミナー、土曜セミナー等を実施し、進路や習熟度に応じた対策を講じる。 イ 学年・学科・系列と協力し、進路意欲向上のためのガイダンスの実施や情報発信をおこなう。 ウ 1人1台端末を使用して、学力生活実態調査や学習支援クラウドサービスを効果的に活用した一人ひとりのニーズに応じた進路指導を推進する。 ※2年生の学校教育自己診断で、「私は具体的な進路目標を持っている」の割合を令和8年度には80%以上にする。(R3 72.3% R4 78.3% R5 69.2%) ※学校教育自己診断で、「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の肯定率を令和8年度には全学年で85%以上にする。(R3 76.8% R4 85.4% R5 84.5%) ※第3学年当初の希望進路実現率を令和8年度には90%以上にする。(R3 94.3% R4 87% R5 90%)
4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり （1）学校運営体制の整備 ア 各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容を点検・評価を行い、校内の「見える化」をさらに進める。 イ 本校の将来を見据えた課題解決の方向性を示し、改善策を立案する。 （2）授業研究を伴う校内研修の充実 ア 授業力・教科指導力の向上を目的として、公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施する。 （3）働き方改革 ア 校務におけるICT活用の推進および部活動適正化の徹底を図る。 （4）家庭・地域との連携の推進 ア 「学年だより」「進路だより」「保健だより」等のデータ配信、授業参観、PTA研修会等の実施、地域イベントへの参加などにより家庭・地域と連携した教育活動を行う。 （5）広報活動の充実 ア 生徒の学校生活や校内行事、校外活動などについて、ホームページを通じて外部に積極的に情報を発信する。 ※時間外在校等時間月80時間以上の教職員を令和8年度には5%以下とする。(R3 18% R4 11% R5 8.6%) ※学校教育自己診断で、「本校に入学してよかったと思っている」の肯定率を全学年で令和8年度には90%以上にする。(R3 83.0% R4 85.0% R5 85.5%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成に向け、多様な生徒に対し、生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導を推進した。「生徒の学習意欲に応じて学習指導の方法や内容について工夫している」教員は93.9%で昨年度同様高い数値であった。「積極的にICT機器を活用している」教員の割合も昨年度の94.7%から96.0%と高い数値を維持し、生徒の「学校は1人1台端末を効果的に活用している」も86.6%から88.7%と85%以上で推移している。学力差の大きい本校における個に応じた指導について実践研究を進めたい 【生徒指導等】 ・生活指導部や担任団中心に指導啓発に努めたが遅刻数を減少させるに至っていない。視野を広げて常識にとらわれず実践研究を継続する ・体育祭・文化祭・国際交流等学校行事に関する満足度は90%以上で非常に高く生徒会中心の企画・立案・実行スタイルによるものと分析している 【学校運営】 ・全校一斉定時退勤日およびノークラブデーの徹底で昨年度は長時間勤務時間を格段に減少させたが、今年度は更なる減少には至らず、校務のさらなる効率化を進めたい ・志願者確保に向け学校説明会等では在校生が本校の説明を行い、校内見学時にも生徒がアテンドするとともに、中学3年生及び保護者からの質問に在校生が直接答える方針で実施したところ、全4回とも来校した中学生・保護者の満足度は90%を超える高いものであった	第1回（6/20） ○R6年度学校経営計画について ・中高一貫校の特性を生かし、中学校と高等学校とが一体となった連携の強化に努めていただきたい ・多様な生徒が在籍する学校として、より一層従前の教育を継承し効率的に取り組んでいただきたい ・学校行事をはじめとする様々な教育活動において、安心して安全な学校づくりに取り組んでいただきたい ・HPをはじめとする広報活動について、今年度時間をかけて、わかりやすさの追求に努めていただきたい ・働き方改革が、全国的な社会問題になっている現状を踏まえ、着実に経営計画に取り組んでもらいたい ・昨年度に続き、高等学校志願者が定員を下回ることがないよう、外部への情報発信に努めていただきたい 第2回（10/30） ○R6年度学校経営計画（進捗状況）について ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用状況について、今後も多様な生徒が在籍していることをふまえ、引き続き丁寧な対応をしていただきたい ・生徒が部活動をはじめ各学科の取組等、様々な場面で活躍している様子について、今後も積極的にアピールしながら、外部へも発信していただきたい ・公式SNSを発信し始めた現状をふまえ、学校ホームページにおいて、今後より一層のわかりやすさを期待したい。併せて、年間行事予定表を含む月ごとの行事予定表もわかりやすく提示していただきたい 第3回（2/5） ○R6年度学校経営計画及び学校評価について ・1年間の評価として、概ね理解をいただいた ・次年度に向けて、次の内容について充実を図っていただきたい ・小学校でのICT教育を踏まえ、中・高ともに、ICT教育へのさらなる工夫や改善を図っていただきたい ・何故、キャリア教育が必要なのか、その意義と目的について、内容の再検討に取り組んでいただきたい ○R6年度学校教育自己診断の結果について ・生徒と保護者の自己診断結果について、概ね理解をいただいた ・前年度より低い項目については、何が原因であったか、その分析を行い、改善に取り組んでいただきたい ○R7年度学校経営計画について ・地域に親しまれる学校をめざし、開かれた学校づくりを基本とした学校経営に取り組んでいただきたい ・外部へ、学校ホームページ等を活用して、生徒が活躍している様子を発信できるよう努めていただきたい

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成	(1) 生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進 ア 主体的・対話的で深い学びの実現	ア・一人ひとりの生徒が能動的に参加できるようにアクティブラーニング型手法を取り入れた授業を行い、専門人材を積極的に活用し、確かな学力の育成と授業改善に取り組む。 大学と連携し高大接続の強化 DX ハイスクール事業等による文理横断的な学びの推進	ア・教職員用学校教育自己診断で、「主体的・対話的で深い学びとなるよう、一方的な講義形式ではない授業形式など授業を工夫している」教員の割合 90%以上を維持 [92.1%] ・授業アンケート結果で、「授業内容に、興味・関心をもつことができた。」の肯定率 85%以上 [84.3%] ・授業アンケート結果で「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の肯定率 85%以上 [84.3%]	ア・アクティブラーニング型手法を取り入れている割合は 89.8%で昨年度同様、個に応じた指導の工夫が確認できた。次年度も弛まず工夫に努め定着させたい (○) ※ほぼ 90%であった ・興味・関心の肯定率は 87.6%であった (○) ・知識・技能の肯定率は 88.6%であった (○)
	イ 授業への ICT 機器の効果的な活用	イ・1人1台端末を効果的に活用した教育実践に取り組む。	イ・生徒用学校教育自己診断で、「学校は1人1台端末を効果的に活用している」肯定率 90%以上 [86.6%] ・教職員用学校教育自己診断で、「授業において積極的に ICT 機器の活用を行っている」教員の割合 90%以上を維持 [94.7%]	イ・生徒の肯定率は 88.7%であった (△) ※昨年度から微増、引き続き取り組む ・教員の肯定率は 96.0%であった (○)
	(2) 自学自習習慣の確立	・学力生活実態調査や学習支援クラウドサービスを活用し、自身の課題把握や教材配信など学習支援を図る。また、大阪公立大学・大阪大学・大阪教育大学等の大学と連携し、大学生の学習ボランティアによる自習環境を整える。	・大学と連携し、学習ボランティアを活用した土曜セミナー(自習スペース開放)を年間5回実施 [5回]	・土曜セミナーを定期考査ごとに年間5回開催。今年度は本校卒業生である大阪大学の学生ボランティアを活用し、生徒の学習に対するモチベーションアップに寄与した (○)
2 豊かでたくましい人間性のほぐみ	(1) 基本的生活習慣の確立	・正門での登校指導や遅刻指導等を通じて、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成を図る。 カウンセリングシートを用いた個別指導 遅刻防止週間の設定 早朝登校の実施	・年間の遅刻数を1人あたり3回以下 [3.49回]	・1人あたり 4.95回 (△) ※遅刻回数が大きく増えた。防止週間及び早朝登校の取組には一定効果があるが他の方策も検討する。またカウンセリングシートは生徒理解の深まりには効果があったが今年度の遅刻数減少にうまくつなげることができなかったので引き続き実践研究を継続する
	(2) 学校行事の活性化	・生徒会役員がリーダーとなり、生徒が自主的に学校行事を運営することにより、他者を理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。また、姉妹校の訪問や受け入れ等、国際理解教育を積極的に推進し、グローバル社会に対応できる力を育成する。	・体育祭・文化祭後の生徒アンケートで肯定的回答 90%以上を維持 [93.4%] ・姉妹校の訪問に参加した生徒の満足度 80%以上 [新規項目]	・生徒の肯定率は 92.5%であった (○) ・参加生徒の満足度は 96.4%であった (◎)
	(3) 体力・運動能力向上のための取組みの充実	・事故を防止し、生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるように運動部の部員を中心についてのセミナーを開催する。	・運動部員に対して年1回以上救急救命処置等のセミナーを開催 ・セミナー参加生徒の満足度 90%以上を維持 [92.9%]	・運動部員に対してのセミナーは日程調整合わずに開催できず。代わりに熱中症予防セミナーを部活動代表者、応援団長・副団長、保健委員対象に実施。また、1年生には授業内で救命救急の内容を講義した。満足度収集できず。 ※10/3に教員向けセミナーを専門学校から講師を招いて実施 (参加：17名)

府立咲くやこの花高等学校

3 進路保障	(1) キャリア教育の推進	・全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びを実践する力の育成をめざして系統的・継続的なガイダンスを行う。	・生徒の状況や実態に応じたガイダンスや講話を各学年とも学期に1回以上実施[1年6回、2年15回、3年20回]	・キャリアガイダンスと進路講話を合わせて、1年生6回、2年生12回、3年生19回実施した(○)
	(2) 進学対策の充実 ア 進路や習熟度に応じた進路指導の推進 イ 多様な進路希望に対応した情報発信	ア・学習支援クラウドサービスを効果的に活用し、従来中心であった放課後のセミナーを長期休業中に集中的に実施する。 イ・進路意欲向上のため学年・学科・系列と連携のもと、生徒の進路実現に向けた情報発信を継続的にこなう。 大学教員による進路ガイダンス 大学教員による出前講義や実技講習 学科、系列ごとの大学訪問	ア・セミナーの講座数 25 講座程度[26 講座] イ・学習支援クラウドサービスを活用した生徒、保護者向けの進路情報の発信を月1回以上実施[12回] ・2年生の学校教育自己診断「私は具体的な進路目標を持っている」の割合 70%以上[69.2%] ・3学期の生徒・保護者アンケート調査「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の肯定率 85%[84.5%] ・第3学年当初の希望進路実現率 85%以上[90%]	・講座数 21 回(△)。講座数は減少したが、入試方式の多様化に対応して、個別指導に移行している。今後も効率的で効果のあるセミナーの運用を図る。 ・進路だよりを12回発信することで生徒・保護者への丁寧な情報提供に努めた(○) ・具体的な進路目標を持っている生徒の割合は 81.6%であった(○) ・保護者の肯定率は 74.3%であった(△) 生徒の肯定率は 85.8%であった(○) ・希望進路実現率 87.3%であった(○)
4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり	(1) 学校運営体制の整備 (2) 授業研究を伴う校内研修の充実 (3) 働き方改革	・特色ある教育の一層の充実を図るため、各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容について点検・評価を行い、校務運営の「見える化」の推進を図り、連携を強化する。 ・本校を取り巻く課題を検討し、教育活動を体系化・継続化するため、将来構想検討委員会を定期的に開催し、魅力ある教育活動の実施をめざす。 ・教職員間での公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施することを通じて授業力・教科指導力の向上をめざす。 ・校務運営における ICT 活用を推進し、校務の効率化を図り、教職員の時間外勤務の縮減を推進する。 全校一斉定時退勤日の徹底 「部活動方針」を遵守するとともにノークラブデーの徹底 保護者配付資料や会議資料のペーパーレス化推進	・校務運営の在り方も検討する将来構想検討委員会を年間5回以上開催[5回] ・公開授業週間、保護者対象授業参観をそれぞれ年2回以上実施[公開授業週間2回、保護者対象授業参観2回] ・公開授業週間で教員向けアンケートを実施し、アンケート結果を自らの授業改善に生かすことが出来た教員の数 70%以上を維持[71.4%] ・時間外在校等時間月 80 時間以上の教職員数 7% 以下[8.6%] ・職員会議の 70%以上を開催時間 50 分以内[73.7%]	・将来構想委員会を5回開催(○) ※各分掌の業務の洗い出し等校務の整理につなげてゆく ・公開授業週間を2回実施、授業参観を2回実施(○) ・前期・後期の公開授業週間アンケート結果より、アンケート結果を自らの授業改善に生かすことが出来た教員の割合は 68.5%(△) ・時間外在校等時間が月 80 時間以上の教職員の割合は 8.6%であった(△) ・60%が 50 分以内に終了できた(△)

府立咲くやこの花高等学校

	(4) 家庭・地域との連携の推進	・開かれた学校づくりのため、「学年だより」「進路だより」「保健だより」等の発行や教職員・PTA 合同の研修会等の実施、生徒の地域イベントへの参加などに取り組み、家庭・地域と連携した教育活動を充実させる。 区主催のイベントへの参加 地域企業等との連携事業の推進	・保護者用学校教育自己診断「本校は保護者に対して、教育活動を理解するための情報提供が適切に行われている」の肯定率 85%以上[84. 8%] ・教職員・PTA の合同研修会を 1 回以上実施[1 回] ・地域で開催される地域イベント等に生徒が参加することができたか。[3 回]	・保護者の肯定率 85. 7% (○) ・10/22 中高合同人権講演会実施 (○) ・此花区民まつり (吹奏楽部)、此花区老人福祉センター望年会 (演劇科)、西九条小学校との交流授業 (スポーツ科学系列)、大阪エヴェッサの試合前パフォーマンス (ダンス部) などの地域連携を 6 回実施 (○)
	(5) 広報活動の充実	・ホームページの更新を通じて積極的に学校に関する情報を発信し、学校の魅力を外部に伝える。 生徒主体の学校説明会や体験入学の運営	・ホームページの更新 180 回以上[178 回] ・生徒用学校教育自己診断「本校に入学してよかったと思っている」の肯定率 85%以上を維持[85. 5%]	・H P 77 回更新、公式 SNS53 回更新 フォロワー761 名 (○) ※魅力発信として成功だったと評価している ※安全性を慎重に量りながら、今後生徒からの公式 SNS 発信も検討したい ・生徒の肯定率 84. 1% (○) ※前年度とほぼ同じ数値のため「○」 志願者確保及びミスマッチによる転退学を減少させるためにも、本校の特色ある教育内容が正しく伝わるように努めたい